

令和3年第1回オガサワラカラヒワ保護増殖検討会 生息域外保全事業の進捗状況について

目的：生息域外における飼育・繁殖の実施と技術確立
～生息域内の繁殖環境が改善されるまで～



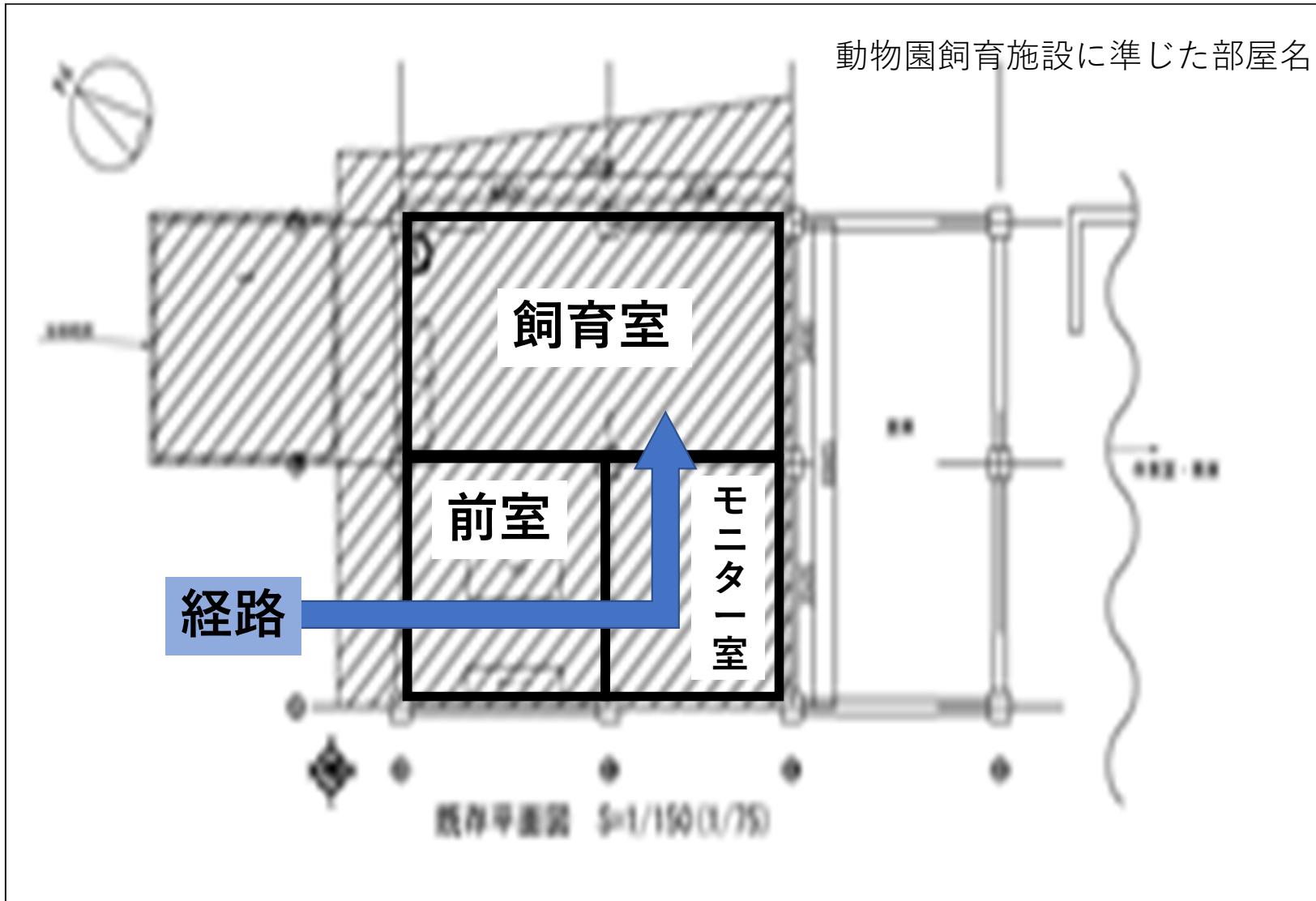
1. 飼育施設の状況
2. 飼養個体の捕獲および初期飼育状況



東京都
受託者：NPO法人小笠原自然文化研究所

1. 飼育施設の状況

動物園飼育施設に準じた部屋名



モニター室設備



洗浄槽

流し台
冷蔵庫
冷凍庫
カメラモニター
エアコン



母島での飼育カゴ



飼育室

飼育ゲージ2基



1840x1880x2020(h)mm
ピッチ11mm
主な線形2mm
スチール製

飼育室設備



エアコン



鳥が巻き込まれない換気扇



自動点灯・消灯



排水溝

飼育ゲージ

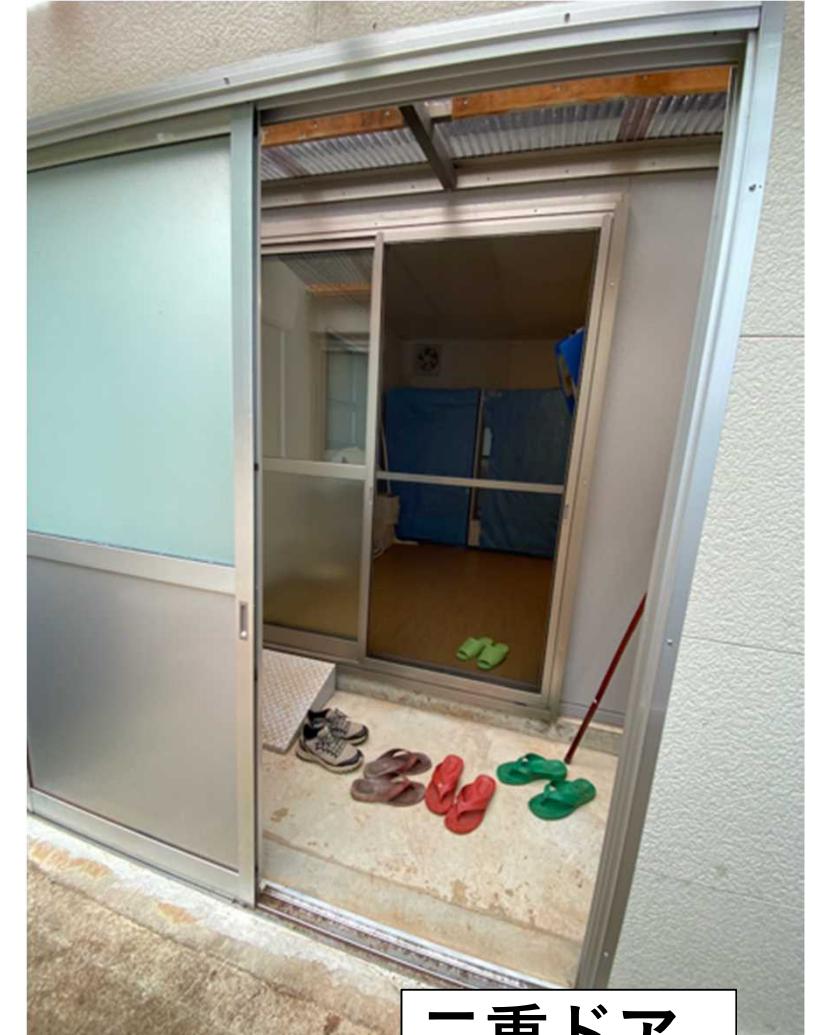


恩賜上野動物園からの資材提供



初期飼育施設

静音、空調、施錠管理、逸走防止



二重ドア

2. 飼養個体の捕獲および初期飼育状況

母島でのオガヒワ捕獲および飼養作業の経過について

- 7月27日：生息域外保全に関する検討打合せ（捕獲数、捕獲スケジュール）
- 7月30日：東京都オガサワラカワラヒワ保護増事業、環境省適合確認
- 8月17日：8月末の捕獲作業を延期決定
 - （母島でのヒワ出現がなく、村内で新型コロナ感染症が連続して発生し、技術者来島自粛）
- 8月25日：父島内の飼養施設の受け入れ準備完了
- 9月13日：捕獲エリアに継続的にヒワ出現（9/3～）
 - （村内で新型コロナ感染症を一掃でき、捕獲作業9/22～30へ変更）
- 9月18日：捕獲地点で寄せ餌開始、翌日よりヒワ採餌
- 9月23日：捕獲開始、5羽捕獲成功、母島施設で初期飼養開始

*9月27日頃、台風接近が予想されるため、捕獲作業は9月24日までとし、9月25日に初期飼育個体を父島施設へ移送

7月27日オガサワラカラヒワ生息域外保全に関する検討打合せ

開催者：東京都小笠原支庁

開催日：令和3年7月27日 オンライン会議

概要：令和3年度夏期のオガサワラカラヒワの試験飼育の開始にあたり、有識者10名および保護増殖事業に係わる行政機関（環境省、林野庁、小笠原村）が集まり、生息域外施設の準備状況、生息域内の繁殖状況等の最新情報を共有し、具体的な進め方について検討した。有識者は、令和2年秋のオガサワラカラヒワ保全戦略ワークショップの域外及び域内保全の参加者（生態学、保全生物学、動物園、解析モデル、地元NGO・NPO）が出席した。

■ 決定事項・合意事項

- 捕獲を 8/18~8/25 に実施する。捕獲数は4羽で合意した。当該期間に4羽捕獲できなかかった場合には、9月下旬に再度母島で実施する。
- 捕獲した個体の中で、若鳥で餌付きやすい個体を優先して選別し、つがいにする。4羽のうち、成鳥は多くても2羽とする。

■ 検討事項

- 今年は例年と比べ、母島内での目撃情報が少ないため、実施日(8/18~8/25)の直前まで姿が確認されなければ、当初の実施時期を9月下旬に変更するか。
- 母島での捕獲が困難な状況であれば、属島での捕獲も検討すべき。その場合、属島での捕獲を想定した予行演習をする必要がある。実施の有無・方法は9月中旬には判断する。



捕獲鳥の標識装着、竹力ゴ
への収容し母島施設へ移送





母島飼養施設で餌付け確認成功（5羽）
(2021/9/23)
オス（成鳥1羽、若鳥1羽）、
メス（若鳥3羽）

餌の減り具合等を確認して、
9月24日に4羽を選別
9月25日に1羽（メス若鳥）を
捕獲場所にて放鳥
検疫のため、糞を上野動物園へ送付



9月25日に4羽を選別して、父島施設に
移送

	若鳥	成鳥
♂	1羽	1羽
♀	2羽	0羽

ははじま丸甲板移送状況 9/25





#1 メス 若鳥 右足青、左足赤＆橙



#2 オス 若鳥 右足青、左足赤＆青



#3 オス 成鳥 右足青、左足赤＆紫



#4 メス 若鳥 右足青、左足赤＆水色